

第2回 登別市中小企業地域経済振興協議会 議事録

平成26年6月26日(木) 18時00分～

登別商工会議所 会議室

- ◆出席委員：川田 弘教 委員  
齋藤 正史 委員  
望月 一延 委員  
藤田 康 委員  
吉元 美穂 委員  
垣内 登紀子 委員  
安達 陽子 委員  
伊奈 綾 委員  
千葉 洋子 委員  
二瓶 秀幸 委員  
松山 哲男 委員  
井上 昭人 委員  
苫米地 真一 委員

計13名

- ◆事務局：商工労政グループ伊東商工労政・新エネルギー主幹  
奥田主査  
竹中担当員

- ◆議題：1. 協議会における今後の進め方について  
2. 会議における記録方法について  
3. 会議ごとの進め方について  
4. 次回の会議日程について



## 2. 会議における記録方法に

会 長	決まった間隔で開催するのか。
会 長	運営委員会は、決まった間隔で開催する予定は考えていない。今後の協議会の進行に際し、必要であると感じた場合に適宜開催する。
委 員	進め方については、現在説明があった内容を基礎として、進行していった中で問題が生じた場合は適宜修正を行っていけばいいと考える。
委 員	登別市第三期総合計画市民検討委員会が抱えているテーマとどこかで整合性を図ることが出来ればいいと考える。
会 長	協議会と登別市第三期総合計画市民検討委員会は、それぞれ別の目的を持った会議であり、協議会においては、中小企業地域経済振興に向けたビジョンを打ち出していきたいと考えている。しかしながら、どちらも登別経済の今後を話し合う場であり、協議会と登別市第三期総合計画市民検討委員会の双方に所属している委員がいることから、整合性を図るべき点が見えてくるかもしれないと認識している。
事務局	市の第三期基本計画に協議会の内容を反映したいと考えた場合、本年12月に行う中間報告の内容を盛り込んでいきたいと考えている。どの程度の内容を盛り込むことが出来るかについては今後の進捗状況にも左右されるが、全く切り離そうという考えはないと考える。
委 員	円滑に会議を進める為に、会議で配布する資料を、各委員に事前に配布していただきたい。
事務局	そのように努める。
委 員	ケーススタディについて、すぐに登別市における各種産業分野の現状把握を始めてしまうよりも、中小企業等の実態や登別市における中小企業の役割等を確認した後で、市内の各分野の現状を把握した方が、より具体的な理解が進み、課題の抽出にもつながるのではないかと考える。
会 長	ケーススタディの手順を変更する。
会 長	各委員の意見や考えを、付箋を使用して記録を残す。

ついて	各委員 会 長	すことにより、委員の発言を整理しやすくしたい。 また、協議会の場で発言できなかった内容についても、拾い上げるためにその都度回収したい。 異議なし。 毎回の会議に際し、事務局と会長による事前打ち合わせを行い、会議ごとの目的・論点を整理した用紙を会議資料として配布したい。
3. 会議ごとの進め方について	各委員 会 長	異議なし。 協議会の発言内容について、議事録として公表して良いか。なお、委員名簿は公表するが、発言者については匿名とする。
4. その他	委 員 会 長	異議なし。 今後の登別市中小企業地域経済振興協議会開催の日程について、どのように決定していくべきか。
5. 次回の会議日程について	各委員	会長・副会長のどちらかが出席できなければ会が成立しない為、会長・副会長の日程を中心に決めていくべきではないか。
	委 員	毎回の会議で決定するよりも、曜日を決めて周期的に行う方が、他の予定を立てやすいと考える。
	会長	原則的に第2週・第4週の木曜日とし、各委員の都合を考慮した上で決定することとしてよろしいか。
	各委員	異議なし。